

〈ニラの花〉

草刈りをしたせいか、あるいはたまたまその時期が来たせいか分からないが、“ニラの花”が満開だ。すっと伸びた1本の茎から白くて小さくてかわいい花がむしゃむしゃと咲いている。ゆらゆらと風に揺れるさまはなんとも愛らしい。「レバニラ炒め」でよくお世話になったニラ、なぜか最近は口に入る機会が減った。時々ギョウザの中に隠れているのに気づくと嬉しくなる。その食欲をそそる匂いは皿の上のギョウザをあっという間に消滅させるに十分だ。



写真を撮ろうと近づいてみると、なかなかの美人さんである。6枚の白い花弁が放射状に行儀よく伸びている。その花弁のまん中に膨らみかけた緑色の子房がボタンのようについてなかなかおしゃれ。いずれは熟してタネになるのだが、上から見るとちょっと肥満気味の円錐形でかわいい。アリだろうか、小さな虫が花弁にたかっていた。愛のキューピットかもしれない。



花のつき方も個性があって、楽しい。線香花火を逆さにしたような形で放射状にたくさんの花が咲く。数えてみたら50近くもあった。1本の花径からこれだけの花が咲くわけだから、出来るタネの量も半端ない。毎年こぼれダネでツンツンした針先ほどの葉があちこちに出る。まさに放任栽培である。柔らかく、美味しそうな葉がたくさん出ているので、今日にでも楽しませてもらおう。